

お遍路さんが途切れない町
茂串町 その1



ことばの通じる
外国のような

「外 から来ると、ここ（四国）は、
ことばの通じる外国のような
感じ。時間の流れ方がよそと違う。
おもしろそうな町だから、今日は
ここで泊まることにして、今から
町を散策してみます」

と話してくれたのは、静岡から来たという若い女性。徳島の一番札所を出て十五日目という歩き遍路さんである。

四国八十八カ所を巡る人は、年間十万人とも十五万人ともいわれる。その人たちは全て、第三十七番岩本寺のある四万十町にも必ず訪れているのである。岩本寺界限を訪ねてみた。

昔は裏山に
お城があった

岩 本寺のある辺りは、四万十町茂串町である。役場本庁舎もここにある。昔は裏山にお城があったといわれるこの辺りは、殿町とか桜町と呼ばれていたようだ。そんな風情ある地名もうなずけるような、かつての門前町の趣を残している町並みである。



通夜堂と善根宿

岩本寺の門前で托鉢をしている初老の男性にもお話を聞いた。七年ほど前に妻を亡くしてからずっとここを廻っていると語る。高知の三月の野宿は厳しかったと話してくれた。

野宿をするお遍路のために地元の人々が作ってくれたのが、通夜堂（つやどう）と善根宿（ぜんこんやど）である。お寺が作ったものを通夜堂といい、一般の人々で作ったものを善根宿と呼ぶのだと教えてくれた。お寺の横の竹藪の中に丸太で作られた通夜堂がある。JRの列車がすぐ脇を通る。近くの善根宿は、七子峠と入野にあるようだ。

お接待の心が生きています



大 型バスの駐車場の横で、団体のお客さんにあぐり窪川のアイスクリームを売っているお店がある。

県外のお客さんには窪川特産の生姜ときな粉のアイスが大評判ということである。奥さんは、私たちにもお接待だと言って二つの味のアイスクリームをごちそうしてくださった。本当においしくてびっくりしてしまった。

小さな店内の壁は、ご主人が撮った、バスとお客さんの写真で埋め尽くされている。

「もう貼る場所がなくなってきたから、古いの外から外そうと思ったが、先日も四年ぶりくらいに来たお客さんが、自分の写真を探していたので外せなかつた」と苦笑いしていた。撮った写真は、県外の方に無料で送ったりもしているそうだ。ここにもお接待の心が生きています。

門前のお店で、外国人の団体客が、箱でトマトを買ってバスの入口で一個ずつ受け取り、頬張っていた姿がとても印象的だった。

同じ門前にある和菓子やさんの「かしわ餅」の張り紙につられてのれんをくぐってしまった。歩き疲れたお遍路さんならずとも、衣服のお抹茶とお菓子は、疲労回復には実にいい。

「高知はあまりお抹茶をいただく習慣がないようですよ」と、このお店の奥さんが教えてくれた。

歩けば発見の
小さな旅

こ の界限を歩いてみると、小さな旅をしている気がしてくる。町自体も改めてみるとおもしろく、歩けば発見もたくさんあった。そして、何より人々がゆつたりと温かく迎えてくれた。

「お接待」の心が脈々と引き継がれているのだろう。町全体におもてなしを受けたようだった。

